

## 【ステートメント全文（仮訳）】

### I. ICEF 設立 10 周年

2023 イノベーション・フォー・クール・アース・フォーラム、ICEF は、10 周年を祝福する。この記念すべき機会に、運営委員会は以下の特別声明を発表し、過去 9 年間の歩みを振り返るとともに、次の 10 年を展望する。

#### 1. 2014 年の ICEF 設立年次会合以来、我々が達成したこと

- 2014 年、ICEF は日本の故安倍晋三元首相が「世界をリードする政策立案者、ビジネスパーソン、研究者が一堂に会し、イノベーションを通じて気候変動に対処するために協力し合える新たな国際会議の設立を提案」したことから始まった。第 1 回年次会合に参加した故安倍元首相は、「前例のない試みであり、世界経済フォーラムのエネルギー・環境重視版である」と述べた。
- ICEF の初期の成果のひとつは、2015 年の COP21 の成功につながった交渉においてイノベーションの重要性を強調し、パリ協定の形成に貢献したことである。
- 2016 年、ICEF は「少なくとも人為起源の CO2 排出量を正味ゼロにする」という野心的な目標を掲げた。それ以来、この目標に対する ICEF の継続的なアドボカシーは、多くの国、準国家機関、企業が今世紀半ば頃にネットゼロ排出を達成することを誓約することに貢献している。
- 設立当初から、ICEF の一貫したメッセージは、技術革新と社会革新の両方が気候変動への対応に不可欠であるということである。この信念を念頭に、ICEF は公共部門と民間部門の両方の役割を詳しく説明してきた。また、国際協力も中心的なテーマとなっている。
- 2017 年以来、ICEF の強い信条は、気候変動の社会的・統制的側面に取り組むためには、多様性、包括性、正義を強化しなければならないということである。ICEF の会議では、若者や女性を含むバランスの取れた参加が実現し、多面的な議論につながっている。
- ICEF は脱炭素化に対して一貫して技術中立的なアプローチを採用しており、これには自然エネルギー、持続可能な原子力、炭素回収・貯留、そしてあらゆる部門にわたる新たな最終利用技術の議論が含まれる。
- ICEF の貢献には、クリーンエネルギー技術の革新ロードマップの作成も含まれる。炭素利用、直接空気回収、炭素鉱物化、低炭素アンモニアなどに関するロードマップは、ネット・ゼロ・エミッションの達成に役立つ技術について、幅広い利害関係者に情報を提供するのに役立っている。「バイオマス炭素除去・貯留 (BiCRS)」という用語は、ICEF のロードマップで初めて提唱され、現在では広く使われている。
- ICEF は、幅広い利害関係者が交流し、気候変動への対応におけるイノベーションを提唱するためのユニークなフォーラムとなっている。日本では、ICEF をきっかけに他の関連する国際会議が次々と開催され、現在では "東京 GX ウィーク" として最高潮に達している。
- ICEF がこの 9 年間で発展してきた中、気候変動を取り巻く世界情勢も大きく変化してきた。2015 年にパリ協定が採択された後、2018 年には IPCC の 1.5°C に関する特別報告が出され、国や地域が今世紀半ば頃にネットゼロを約束する機運がさらに高まった。我々は、再生可能エネルギーや電気自動車を筆頭に、新技術の大規模な導入を目の当たりにしてきた。しかし、各国の国が決定する貢献 (NDC) と 1.5°C の道筋の間には依然として大きな隔りがある。このギャップを埋めるためには、加速度的な進展が必要である。

## 2. グリーントランスフォーメーション（GX）を進めるために必要なこと

- 今年、日本の議長国の下、広島で開催された G7 首脳会議は、「我々は、グリーントランスフォーメーションを世界的に推進及び促進し、我々の経済の変革の実現を目指して協働する」ことに合意した。G7 間の合意が必ずしも世界的なコンセンサスでないことは明らかだが、グリーントランスフォーメーション（GX）は我々の共通の課題であり、共通の機会である。
- G7 首脳は、「エネルギー安全保障、気候危機及び地政学的リスクに一体的に取り組むことにコミット」した。また、G7 首脳は、「我々は、各国のエネルギー事情、産業・社会構造及び地理的条件に応じた多様な道筋を認識しつつ、これらの道筋が 2050 年までにネットゼロという共通目標につながることを強調する」とも述べている。このような声明は、我々が GX を追求するための基本的かつ共通の方向性を示している。
- エネルギー安全保障を高め、エネルギー転換による環境への悪影響のリスクを低減するためには、クリーンエネルギー技術のサプライチェーンを拡大・多様化し、重要鉱物の代替品を見つけることが不可欠である。
- 先進国の努力だけでは十分ではない。技術移転や気候変動資金を含むテーマでの南北国際協力の強化が不可欠である。

## 3. 将来に向けて

- ICEF の基本的な役割と使命は変わらない。ICEF は、多様性と包括性を強化しながら、技術革新と社会革新の両方を促進することに引き続きしっかりと取り組んでいく。今後数年間、我々の取り組みはさらに強化されるであろう。IPCC の AR6 が指摘したように、この 10 年間の選択と行動は、現在そして今後何千年にもわたって影響を及ぼすことになる。これまで以上に緊急に、この重要な 10 年間に気候危機に取り組むための解決策の規模拡大を加速させる必要がある。
- ICEF は、現在利用可能な解決策の展開を加速し、温室効果ガスの排出を削減し大気から二酸化炭素を除去するためのアプローチを革新し続けることを含む、新たな焦点となる課題に取り組む。その際、ICEF は国の視点だけでなく、セクター別の考え方、特に削減が困難なセクターに関する考え方の重要性を強調する。さらに、持続可能な金融は、より焦点が当てられるべきものである。金融界は、クリーンエネルギー技術の導入拡大にもっと関与する必要がある。
- ICEF は、重要な素材、エネルギー技術及び製造のための新しく多様で安全なサプライチェーンの開発に専心している。
- ICEF は、エネルギー転換の中でグローバル・サウスが成功し、避けられない気候変動への影響に対処できるよう、南北協力の規模を拡大し、その効果を高めることに特に注意を払っている。
- ICEF は、次世代を担うイノベーターが新しい解決策を実現し成功できるよう、これらのイノベーターが世界のリーダーと直接交流し、リソースにアクセスし、新しい市場に参入できるよう支援し続ける。

## II. ICEF2023

“公正で安全かつ持続可能なグローバル・グリーントランスフォーメーション（GX）のためのイノベーション”という主題の下、ICEF の第 10 回年次会合（[ICEF2023](#)）は 2023 年 10 月 4 日と 5 日に、エネルギー・環境問題を幅広く議論する 10 の会議「[東京 GX ウィーク](#)」のイニシアチブとして、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。今回のイベントには、79 の国・地域を代表する政府、国際機関、産業界、学术界から約 1,700 人が参加した。ICEF2023 の閉会に当たり、運営委員会は、一連の議論に基づき以下の声明を発表する。

- ICEF2023 では、エネルギーと資源の安全で強靭なサプライチェーンを構築するための革新的な政策立案について詳細な議論が行われた。国境を越えた協力の必要性が確認され、政策、技術、金融、イノベーションの接点が議論された。

- ICEF2023 では、誰一人取り残すことなく包括的に GX を追求する「GX together」についても議論された。ジャスト・トランジションが地域的、社会経済的観点から議論され、公共と民間のブレンディド・ファイナンスのメカニズムの役割についても詳しく説明された。
- 先進的な専門家たちは以下の 5 つの具体的な問題を扱った
  - 第一に、パリ協定の下、国連気候変動枠組条約締約国が 5 年ごとに NDC を更新・強化する際の情報提供プロセスであるグローバル・ストックテイクである。第 1 回グローバル・ストックテイクは、間もなく COP28 で集大成される。ICEF2023 は、民間セクターや NGO の意見を収集する絶好の機会となった。
  - 第二に、食糧、水、エネルギー、気候変動の関連性である。水と土壌に関連した持続可能な農業と食料安全保障、そして気候変動に対処するために必要な適応策と強靱性対策が議論された。
  - 第三に、再生可能エネルギーの革新的かつ包括的な利用である。国連の 17 の持続可能な開発目標との相乗効果や相互利益を通じて、地域社会、環境、生態系に対する利益を最大化し、負の影響を最小化する方法などが話題に上った。開発途上国の役割が強調された。
  - 第四に、持続可能な航空である。2050 年以降の持続可能な航空燃料（SAF）供給の予測、航空燃料の代替品の特定、水素電気パワートレインのような推進システム改善の機会などがトピックに含まれた。
  - 第五に、核融合技術である。有望技術の開発や投資誘致における新興企業や大学のスピノフの役割など、最近の動向が議論された。
- ICEF 運営委員会は、ICEF2023 および過去 9 回の会合における講演者および聴衆の積極的な参加に深く感謝する。我々は、多様なステークホルダー、特に先進的な若者、女性、イノベーターを巻き込み、カーボンニュートラルで持続可能な未来のための技術革新と社会革新の機運をより高めることに引き続き尽力する。

